

特別講演

～ 絵画を描く知性の実現 ～

"Making Art in a Changing World" (変革の時代における芸術の創造)

日時 : 2002年7月18日(木) 17:30~19:00

場所 : 島根県立美術館ホール (住所: 松江市袖師町1-5 TEL: 0852-55-4700(代))

講師 : ハロルド・コーエン (Harold Cohen) 教授 (米国カルフォルニア大学サンディエゴ校)

参加 : 定員190名(先着順) 参加費無料、逐次通訳付

主催 ソフトウェア技術者協会(SEA) <http://www.ijnet.or.jp/sea/>
島根県立美術館 <http://www2.pref.shimane.jp/sam/>

コンピュータに人間が描くのと同様に絵画を描く知性を持たせる研究をされている米国カリフォルニア大学のハロルド・コーエン教授をお迎えし、実際にコンピュータが描いた絵画を紹介しながら講演をしていただきます。講演内容は美術に深い関係があり、広く一般の方にも興味をもってご参加いただける内容であると考えておりますので、是非ご参加ください。

コーエン教授が開発されたAI(人工知能)技術を応用して「絵を描くプログラム Painter: Aaron」において、絵画を描く知性をコンピュータ上でどのように実現するか、どのような絵を描くのかをお話していただきます。

Aaronは、自動的に絵をどんどん描くプログラムで、人間がコンピュータ上で絵を描くために使用する描画ツールではなく、AI技術により、コンピュータ自身がその知性により絵を描くプログラムです。描く絵画が抽象画ではなく、具象絵画であるところにも特徴があります。

どのようにすればコンピュータに知性を持たせることができるか、そもそも知性とは何かなどについてお話していただきます。

《ご参考 URL》

ハロルド・コーエン教授

<http://crca.ucsd.edu/~hcohen/>

Aaronの作品

<http://crca.ucsd.edu/~hcohen/cohenpdf/furtherexploits.pdf>

<http://creative.lboro.ac.uk/eae/CC02/CC4.html>

《ソフトウェアシンポジウム》

ソフトウェアシンポジウムは、1980年にソフトウェア産業振興協会(現在の情報産業振興協会(JTSA))の主催で第1回が開催されました。その後、より広い場での技術者・研究者の交流を目指して創られたソフトウェア技術者協会(SEA)により開催されるようになり、今年で22回目を迎えるソフトウェアの技術者と研究者の交流の場です。

<http://www.ijnet.or.jp/sea/Events/symposium/sshist.html>

